

美術専攻 立体芸術研究領域

モンタニ カンナ

門谷 葉奈



What is between us

樹脂

## What is between us

私たちの間にあるもの。家族、伝統、受け継がれてきたもの、そしてこれからも受け継がれていくもの。この作品は、子どもを抱く親とぬいぐるみを抱く子どもの2つのイメージを重ね持ち、家族や伝統の継承についてミクロとマクロの視点を交差させる。作者は6代続くクリスチャンの家に生まれた自身のアイデンティティをベースに信仰と愛、畏れをテーマに作品を制作してきた。この作品は自身と家族の関係から始まり、人類という大きな繋がりの中にある関係性について注目して制作した作品である。ぬいぐるみを抱く子どもはいずれ大人になりその腕に子どもを抱くかもしれない。そうした繋がりや生命の誕生から今日まで繰り返され、今の私達がいる。ミクロな目線で見ればそれは一つの家族の関係であり、それぞれが家族という繋がりの中に様々な感情を抱いているだろう。一般的に家族の関係は家族愛などと美しく捉えられる傾向があるが、実際には様々な感情を含むものだ。家族の形も変化し、人によってそれは美しく、あるいは苦しいもの、またはその両方であろう。家族という血の繋がりや否応なく人生に付き纏うもので、この温かな鎖は大きな感情を生むこともある。一方で、マクロな目線で見れば、それはこれまでも、そしてこれからも積み重ねられていく繋がりや小さな一部分に過ぎない。人類が生まれてから数百万年、我々は命をつないできた。その結果が今のわたしたちを存在させている。そしてまた新たな世代に繋いでいくのだ。命のあり方は人間だけでなくすべての生き物で共通だ。受け取り繋いでいく。ただ、その繰り返し。真っ直ぐ前を見つめ、直立する姿は存在の力を強め、今までも、そしてこれからもあり続ける存在を象徴する。私達は何を受け取り、何をつなぐのか。